

地産エネのカーポート つくラッセルで太陽光発電

豊田市旭地区の旧築羽小学校を活用した人材創造拠点「つくラッセル」に、超小型EVの充電や災害拠点としても活用できる小型ソーラー・カーポートが完成した。施設を運営するMieasyの戸田友介社長が再生可能エネルギーの普及を進める三河の山里コミュニティパワー(MYパワー)や豊田信用金庫

(藤嶋伸一郎理事長)などの協力を得て、カーポートの上にソーラーパネル30枚(出力11・7キロワット)を設置した。つくラッセルは2018年の開設以来、地域拠点として旧教室を活用したコミュニティビジネスを展開する一方、M社もデイサービスなど地域に欠かせない活動を行っている。

旭地区ではガソリンスタンドが1カ所だけとなり、小型EV・里モビは欠かせない足となっ



ることから、里モビ6台まで充電できるカーポートを設置した。パネルではつくラッセルの使用電力の8割以上を賄える。里モビ理事の鈴木慎一



里モビの充電ができるソーラーカーポート＝1月28日、豊田・旭八幡町の「つくラッセル」で

さん(74)は「夕方に充電すれば山道の多い地区でも40キロは走れる。ソーラー設置でつくラッセルに新しい機能が生まれ」と話す。足助病院名誉院長でM

Yパワーの早川富博社長は「パネル設置は足助病院に続いて2カ所目。これを機に地域エネルギーを地域の人が考えるきっかけになれば」と話している。【柴田永治】